

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	仙台市家庭教育支援チーム (呼称:杜の家せんだい) URL: http://morinoie.html.xdomain.jp/
②活動拠点	仙台市民会館トークネットホール・仙台市内市民センター等
③活動範囲	仙台市内全域
④組織体制	8 人 大学教員 1 人、大学非常勤講師 1 人、専門学校教員 1 人、 中学校教諭 1 人、元養護教諭 1 人、元塾講師 1 人、臨床心理士 1 人、 子育てサポートリーダー 1 人、
⑤活動開始年度	平成29年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 事務局長 横田 広 (TEL)080-5224-0788 (E-mail)morinoiesendai.info@gmail.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) L { <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	<input type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

【具体的な活動内容】

1. 学びの場の提供

幼児期から青年期の子供を持つ保護者を対象に、仙台市内市民センター、オンラインで子育てについての講座、ワークショップ、養育者に有益な各種プログラム、支援団体等の活動紹介等を年3回程度行い家庭教育の啓発を行っている。また講師派遣を要請があった場合に実施。講師は各分野の専門家や、家庭教育に携わる実践者等である。



左は「十人十色の子育て&親育ち」右は「青少年に対する武道教育に学ぶ」

③活動内容



「発達凸凹さんが生きやすくなるには～生きづらさ・育てにくさへの対応を考える」

2. メールマガジンの発行

家庭教育や子育て、健康、本や映画の紹介等、保護者に多彩な学びの場をメールマガジンを通して提供している。執筆者は、当チーム員、セミナーの講師、参加者、子育てを体験した父兄等で、月2回配信している。またこの内容はホームページでも紹介している。

仙台市家庭教育支援チーム 杜の家せんだい ☆★メルマガ★★

URL: <http://www.mag2.com/m/0001681019.html>

3. 会報の作成

セミナー終了後には、「杜の家せんだい ニュースレター」を発行している。セミナーの内容と写真、参加者の感想等を載せたもので、参加できなかった人にも、どんなセミナーであったか知らせることをねらいとしている。

	<p>4. 家庭教育支援ネットワークづくり</p> <p>セミナー、家庭教育フォーラム等で出会った人々、他家庭教育支援団体とともに、学校、地域、父兄等と連携した家庭教育支援のネットワークをつくり、地域の子どもたちを育てる環境を整えていく。</p>
<p>④活動の成果 (活動実績がある場合)</p>	<p>コロナ禍においては、この期間に必要な保護者向けの情報提供や、行政、子育て支援団体、個人等、様々な団体が行っている活動を紹介してきた。親が子にしてあげられることは、様々なあるが、何が親にとって、その子どもの成長にとってベストなのかは、その家庭、家庭によって違う。その為、その家庭にあった各種多様なアプローチが必要となる。同世代の仲間とのコミュニティによって、時には武道を通じて、あるいは、親の普段の言葉のかけ方によって変わっていく子どもたちがいる。しかし、専門家の助けが必要な子どもたちもいる。また、親同士のコミュニティも重要である。</p> <p>セミナーの開催を通して、保護者がまずは、多様な選択肢を持つことが必要なこと、それができない場合には、親の代わりになって支援できる人間が必要なことを痛感した。今後も活動を継続して、保護者に多様な選択ができる情報を提供すると同時に、今まで関係を持った団体とともに、子ども達を育てる環境づくりをしていきたい。</p>
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()</p>